

北東アジアの平和のために過去を学び未来を考える

2018年/北東アジア平和と友好の旅

日・韓・露の歴史を振り返りながら

ロシア・サハリンを訪ねる旅

🇷🇺 サハリン + 🇰🇷 京畿道安山

2018年7月9日(月)~14日(土) 6日間

= 感想文集 =



7/11 北緯50度線モニュメント前にて

企画・実施

日本コリア協会・大阪・日本中国友好協会大阪府連合会・大阪私学退職者の会

協力 JU観光旅行友の会

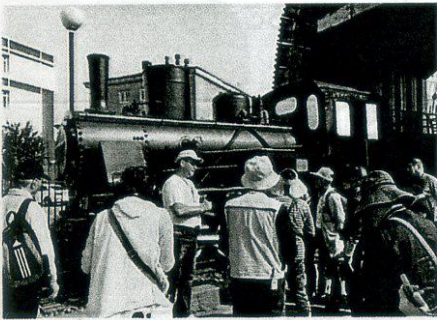
副島 昭一さん

この企画旅行には4回目の参加でした。これまでの旅行は一定の予備知識がある地域でしたが、サハリンについてはほとんど何も知らない場所だった事もあり得るところの多い旅でした。以下思いつくままに。

ユジノサハリンスクの日本人墓地は現在では墓地全体が公園のような閑静で、ガイドさんも道に迷うような広い地域の一角に日本人の墓地がありましたが、今は平和観音像と「日本人死没者合同墓碑」と書かれた無縁塔があり個別の家の墓はありませんでした。ただそこまじりかのように置かれていた墓石（法名塔か）に「遠藤ハツ 明治三十七

年六月六日没享年二十九歳」,「遠藤輝彦 大正十年九月十日没享年二歳」と刻まれていたのが印象に残りました。ハツさんが亡くなったのは日露戦争開戦(1904年2月)から間もない時,日本軍の樺太上陸(1905年7月)よりずっと前でした。19世紀末から中国東北からシベリア東部には多くの日本人女性が渡っていたのですが,サハリンにもそのような女性がいたであろう事を今回気づきました。何らかの事情で樺太に渡ったハツさんは子供を産んだ後まもなく亡くなった,それから17年後,成人したその子の子供つまりハツさんの孫も亡くなった,ハツさんの子は親と子の遺骨を安置するために立派な墓を建てた,刻まれていた文字は比較的明瞭であったので墓自体はそんな古くないのかもしれない・・・等々想像しました。

鉄道博物館はぜひ日本人に見て欲しいという熱意あふれる館長の説明で珍しい車両や設備の実物を数多く見る事ができました。子供の頃雪の中で活躍するラッセル車とロータリー車の絵を見るのが好きだった記憶があります。ラッセル車は日本国内で見た覚えがありますが,ロータリー車の実物を見たのは初めてでちょっと感激でした。



ツアーの事前学習の飯田光徳さんの話で映されたビデオで,大本營の戦闘停止命令を札幌の方面軍司令部が現地に伝えず,現地軍はソ連軍を攻撃してそれがソ連軍の本格的進攻を招いたことを示してもらったのはとても意義があったと思います。敗戦時の日本人の苦難が語られる際,ソ連の一方的中立条約破棄による進攻とそれにとまなう

蛮行が強調されますが,降伏後の現地日本軍の戦闘継続がより多くの日本人の犠牲を生むことになったことは,注意しておくべきだと思います。千島列島最北端の占守(シュムス)島での戦闘継続については浅田次郎の小説『終わらざる夏』もあり,前に知っていましたが,こちらでも同じように継続されたことは今回初めて知りました。瑞穂村の朝鮮人虐殺もこの時起こり,これについては藤原栄一さんが提供された資料がとても参考になりましたが,真岡郵便局の女性交換手の集団自決と時を同じくして起こったこの事件も合わせて語り継がれるべきだと痛感しました。

学生との交流で学生諸君が日本で興味あるものとしてアニメをあげたのは,ああ今の若い人だからさもありなんと納得しましたが,「好きな作品は?」という問いに宮崎駿の作品と答え,さらに宮崎の作品ならほとんど全部見ているというに到っては意外でもあり,その健全な(私の価値観から見て)感性が嬉しくまた頼もしく感じました。

最後の日ホテルを出る時トランクの取っ手が壊れているのに気がつきました。保険請求できるという話を聞いたのでそのようにしようと思っていましたが,帰国後ネジが緩んでしまっただけで落ちていたのが見つかり,それをはめ直して自分で修理できました。こういうこともあるのでネジが見えるトランクは出発前にはチェックした方がよさそうです。

字数の関係でその他のことについては割愛します。なお,昨年までのツアーの感想は以下に置いています。(http://12sun.on.coocan.jp/essay/eastasia.html)